

『イスラーム世界研究』投稿規定

1. 投稿原稿の種類

1) 論考

論文、サーヴェイ論文、研究創案ノート、臨地サーヴェイ

2) 知のインフラ構築への貢献

原典翻訳、主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィ

3) 書評及び研究動向

書評論文、研究動向・研究レビュー、書評

4) フィールド報告

フィールド報告

2. 投稿原稿の構成

1) 論考は、題名、著者名、本文、引用文献リスト、図表などからなる。ただし、日本語の論考の場合は、題名、著者名、題名（英語）、著者名（ローマ字）、英文要旨、本文引用文献リスト、図表などからとなる。

2) 原典翻訳には、訳者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィには、作成者、出典を明記し、資料内容に適切な形態を取る。

3) 書評論文・書評には、評者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。

4) フィールド報告には、滞在地、滞在年月日、滞在期間を明記する。

3. 提出方法

1) 必要添付書類

原稿の冒頭に、以下の事項を明記した別紙を添付する。

- ・ 原稿の題名・種別・枚数
- ・ 執筆者の氏名（ローマ字表記を添える）
- ・ 所属機関・部局名と身分・役職（英訳を付ける）
- ・ 連絡先（電話番号と e-mail アドレス）

2) 注意事項

最終原稿と内容の英文説明及びタイトルの英訳（「書評」は不要）を電子データ（テキスト形式・Word・一太郎・TeX 等）で提出する。打ち出し原稿1部とそのコピー1部も添える。その際、注や文献表などに遺漏がないか、必ず確認してから提出する。また、うまく表示されない特殊な文字について、朱で指示するか囲むなどして、注意を喚起する工夫をする。なお、原稿は原則として返却しない。

3) 外国語の投稿に関して

外国語の投稿は、本投稿規定に準じると共に、投稿前にネイティブ・チェックを済ませておく。

4. 査読について

査読は、査読委員会によって覆面方式で行う（全カテゴリー）。

5. 著作権について

本誌に掲載された論文などの著作権は本誌編集委員会に帰属する。

6. 書式

1) 章構成

本文の章は、ローマ数字（I, II, III）を、節を算用数字（1, 2, 3）で示すこととする。

2) 転写

転写規則は、原則として『岩波イスラーム辞典』に拠るものとする。

3) 表記の原則

用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例になっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称については、初出に限りその原語（アルファベット表記）をカッコ内に付記する。

4) 英文要旨

各論考の最初にそれぞれの英文要旨を、雑誌巻頭に雑誌全体の英文要旨を付けるので、内容の説明を200語程度の英文で添付する（但し、「書評」は除く）。なお、必要がある場合、英文校閲および編集は編集部で行う。

5) 数字

原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則として算用数字を用いる。ただし万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、十数年などとする。

西暦以外の暦が関わる場合は、原則として西暦以外の暦と西暦を併記する。ただし、西暦のみの表記も可とする。

[例]

年代：単年のときは、1945年、複数年のときは、1945-48年（1945-8年としない）と記す。

人名：アブー・ハーミド・ガザーリー（Abū Ḥāmid al-Ghazālī, d. 505/1111）

ホメイニー（Rūh Allāh Mūsavī Khomeynī, 1902-1989）

6) 文献の引用

① 引用文献や参照文献の詳細な書誌情報は、原則として脚注には記さず、原稿の末尾に一括して載せる（古典を多用する場合は、人文方式も可とする。但し、書名には下線を引かず、イタリックにする）。

② 本文および注の中で、引用または参照のために文献を挙げるときは、著者名、発行年、（必要なら）ページ数を [] し、本文中に入れることとする。ただし、その文献の著者名が文の主語となっている場合は、発行年（及びページ数）のみを [] に入れることとする。

[例]

…… [Tabata 1978: 147]

…… [吉本 1975a: 15-18]

- …… [坪井 1979: Ch. IV]
- …… [福田ほか 1979]
- …… [Fukushima et al. 1980]
- …… [大黒 1987; Johnson 1998]
- …… [Robertson, H. 1979; Robertson, S. 1998]
- …… [Yamada 2000: 7-17; 2002: 37-59]
- …… [IIBI] (オンライン文献の場合は、閲覧年月日を記載しない)
- 吉本 [1975a: 15-18] は、……

③同一の文献を繰り返し引用や参照する場合には、そのつど上に示した文献表記をし、原則として前掲書、同上書、*ibid.* や *loc. cit.* など使わない。

7) 引用文献リスト

本文および脚注において引用した文献は、すべて原稿の末尾にまとめ、下記の方法により記入する。

①一般原則

文献表示の順

a. 単行本、多巻本など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 発行年 (西暦)
- (3) 『書名』 シリーズ名 (カッコ書きする)
- (4) 出版地・発行地名 (外国語文献の場合のみ記入)
- (5) 出版社・発行所名

b. 雑誌、論文、新聞など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 掲載紙誌の発行年 (西暦)
- (3) 論文タイトル
- (4) 掲載紙誌名
- (5) 巻・号
- (6) ページ

②リストの順

a. 日本語文献、外国語文献の順で記す。

b. 日本語文献は著者の五十音順、外国語文献は著者のアルファベット順で記す。(アラブ人の人名などで al- が付く場合、al- は表記するが、順番としては al- を除いた場所に入れる。)

c. 同一著者による複数の著作は年代順で記す。

[例]

i) 日本語文献の記載例

a. 単行本

井筒俊彦 1975 『イスラーム思想史』 岩波書店.

—— 1992 『イスラーム哲学』 (井筒俊彦著作集 5) 中央公論社.

b. 論文

- ・単行本所収論文

- 菅原和孝 1999 「現代のブッシュマン——定住化と再移住」川田順造（編）『アフリカ入門』新書館，pp.135–154.
- ・雑誌論文
- 倉沢愛子 1998 「インドネシアの村落開発における情報伝達——『クロンブンチャピル』を中心に」『アジア経済』39(9), pp.71–90.
- c. 翻訳文献
- カステル，マニユエル 1997 『都市とグラスルーツ——都市社会運動の比較文化理論』（石川淳志監訳 吉原直樹・安江孝司・橋本和孝・稲増龍夫・佐藤健二訳）法政大学出版局。
- d. 新聞
- 酒井啓子 2007 年 3 月 17 日 「イラン攻撃は近い？」『朝日新聞』。
- 『毎日新聞』2000 年 3 月 22 日 「米・インド関係——両国首脳交流拡大の共同声明に署名」。
- e. 文書
- 斉藤良衛 作成年不詳 「日独伊同盟条約締結要録」外務省記録 B.1, O.O.J/X3-7.
- f. オンライン文献
- 下記 ii) f. に準ずる。
 - ii) 外国語文献の記載例
- a. 単行本
- Burke, T. 1996. *Lifebuoy Men, Lux Women: Commodification, Consumption, and Cleanliness in Modern Zimbabwe*. Durham & London: Duke University Press.
- Young, Richard. 2006. *Europe and the Middle East: In the Shadow of September 11*. Colorado & London: Lynne Rienner Publishers.
- al-Şāyigh, Fāṭima. 2000. *al-Imārāt al-ʿArabīya al-Muttaḥida: Min al-Qabīla ilā al-Dawla*. al-ʿAyn: Dār al-Kutub al-Jāmiʿī.
- b. 論文
- ・単行本所収論文
- Obeyesekere, G. 1980. “The Rebirth Eschatology and its Transformations: A Contribution to the Sociology of Early Buddhism,” in Wendy D. O’Flaherty (ed.), *Karma and Rebirth in Classical Indian Traditions*, Berkeley: University of California Press, pp. 137–164.
- ・雑誌論文
- Ingold, T. 1990. “An Anthropologist Looks at Biology,” *Man* 25(2), pp. 208–229.
- c. 翻訳文献
- Bourdieu, P. 1990. *The Logic of Practice*, (tr.) Richard Nice. Cambridge: Polity Press.
- d. 新聞
- Techawongtham, Wasant. 2000 (Jun. 23). “People made to pay for mistakes,” *Bangkok Post*.
- e. 文書
- NSC 41 1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D.C.).
- f. オンライン文献
- SW (Social Watch) . 2007. <<http://www.socialwatch.org/en/portada.htm>> (6 月 6 日閲覧) .